

審議資料

東京 2020 オリンピック・パラリンピック 競技大会 実施段階環境影響評価調査計画書（馬事公苑）に係る 環境影響評価の項目選定及び項目別審議について

1 選定した環境影響評価の項目 19項目（選定した理由 P102～103）

大気等、生物の生育・生息基盤、生物・生態系、緑、騒音・振動、日影、景観、自然との触れ合い活動の場、歩行者空間の快適性、水利用、廃棄物、エコマテリアル、温室効果ガス、エネルギー、安全、消防・防災、交通渋滞、公共交通へのアクセシビリティ、交通安全

【総括意見】

- 1 計画地は、多くの住宅、教育施設、福祉施設、医療施設等の環境上配慮すべき施設に囲まれた立地であり、本事業に対し周辺の道路幅が十分でない箇所も見受けられる。このことから、本事業の実施に当たっては、施工方法、使用する建設機械の種類及び台数、工事用車両の各走行ルートにおける台数、環境保全のための措置等について十分に検討し、周辺地域への環境負荷の低減及び安全の確保に努めること。
- 2 本事業では、解体工事及び建築・土木工事が実施されることから、解体施設、保全施設及び新築施設の対象や範囲等について明らかにした上で、適切に予測・評価を行うこと。

【生物の生育・生息基盤、生物・生態系、緑 共通】

緑化計画について、将来を見据えた適切な緑環境整備を行うとしていることから、現況からの変更内容を明らかにするとともに適切に予測・評価すること。

【騒音・振動】

計画地周辺の道路交通騒音は、現状でも環境基準を超えている地点があることから、工事用車両の走行に当たっては、計画的な運行管理、規制速度の遵守、急発進・急加速の防止等を適切に実施するなど、道路交通騒音の低減に努めること。

【交通渋滞、公共交通へのアクセシビリティ、交通安全 共通】

大会開催中における関連車両等の走行に伴い、計画地周辺を走行する路線バスの運行への影響や歩行者等の安全への影響、周辺道路の交通渋滞等が懸念されることから、予測・評価に当たっては、大会開催中の輸送計画を踏まえ、適切に行うこと。

2 選定しなかった環境影響評価の項目 16項目（選定しなかった理由 P104）

水質等、土壌、水循環、史跡・文化財、土地利用、地域分断、移転、スポーツ活動、文化活動、ボランティア、コミュニティ、環境への意識、衛生、経済波及、雇用、事業採算性

3 都民等の意見（募集期間：平成28年6月16日から7月5日 20日間）

なし